

第3回国連防災世界会議 女性と防災について



内閣府男女共同参画局

第3回国連防災世界会議 結果概要



国連防災世界会議とは

- 国連防災世界会議はグローバルな防災戦略を策定する国連主催の会議であり、第1回世界会議（1994年、横浜市）、第2回世界会議（2005年、兵庫県神戸市）、第3回世界会議（2015年、仙台市）ともに日本で開催。

第3回国連防災世界会議の概要

- 天皇・皇后両陛下のご臨席の下で開会式が行われ、2015年3月14日（土）～18日（水）に仙台市で開催。
- 187か国、国際機関、認証NGO等6,500人以上（25名の首脳級含む100名以上の閣僚、国連事務総長、UNDP総裁等）が本体会議に参加。関連事業を含めるとのべ約15万人以上が参加し、我が国で開催された国連関係の国際会議として最大級。
- 山谷内閣府特命担当大臣（防災）が議長を務めた。
- 総理から「仙台防災協カイニシアティブ」を発表し、今後4年間で計40億ドルの協力及び計4万人の人材育成を表明した。
- 本体会議のほか、関連事業（パブリック・フォーラム等）を開催。

- ◆ **仙台防災枠組2015-2030**：「兵庫行動枠組」の後継となる2015～2030年の防災の取組の枠組。期待される成果と目標、指導原則、優先行動、関係者の役割や国際協力を規定。事前の防災投資、「より良い復興（Build Back Better）」、多様な主体の参画によるガバナンス、人間中心のアプローチ、女性のリーダーシップの重要性等、日本が重視する点が盛り込まれている。
- ◆ **仙台宣言**：「仙台防災枠組2015-2030」実施に対する政治的コミットメント。

女性の活躍、ジェンダーに関するセッション等

- 本体会議
[ハイレベルパートナーシップ対話「女性のリーダーシップ」](#)が実施され、[安倍総理が基調演説](#)を行った。
- 関連事業
パブリックフォーラム、展示などが実施された。
(「女性と防災」テーマ館(於:エルパーク仙台)におけるシンポジウム、展示等)
- 「仙台防災枠組」
2015年から2030年の取組の枠組として採択した[「仙台防災枠組」](#)において、女性の役割、ジェンダーなどが記載された。(詳細別紙)
- 我が国の支援:
総理が[「仙台防災協カイニシアティブ」](#)を発表し、今後4年間で計40億ドルの協力の実施及び計4万人の人材育成を行うことを表明。
同イニシアティブの柱の一つである「ソフト支援」に[「防災における女性のリーダーシップ推進のための研修」](#)が含まれている。

3

仙台防災協カイニシアティブ

1 基本的考え方

- ◆ 災害は、貧困撲滅と持続可能な開発に対する障害であり、人間の安全保障に対する脅威。
- ◆ あらゆる開発政策・計画に防災の観点を導入する「**防災の主流化**」が重要。ポスト2015年開発アジェンダにも防災が明確に位置づけられることが資源動員の観点から重要。
- ◆ 本年中の合意が求められている気候変動交渉においても、「適応」への取組に大きな関心。防災分野での確固たる取組は、気候変動交渉にも貢献する。
- ◆ 日本は、防災先進国としての知見と技術を世界に共有しながら、国際社会と共に、災害に負けない強靱な社会を構築していく。

2 基本方針

- ◆ 防災政策については、兵庫行動枠組の時代(過去10年)の経験も踏まえ、以下の3点を重視。
 - ①**長期的視点に立った防災投資**
災害後の緊急対応・復旧よりも、事前の防災投資の方が費用対効果が高く、持続可能な開発に資する。
 - ②**「より良い復興(Build Back Better)」**
災害後は、災害に強い国・地域づくりのための抜本的な措置を実施する契機。
 - ③**中央政府と多様な主体の連携**
中央政府を中心として、地方自治体、民間企業、NGO/CSO、国際機関・地域機関等、ネットワークによる対応。
 - ◆ 協力の実施に当たっては、以下の視点を念頭に置く。
 - ①**人間の安全保障のアプローチと女性の参画推進(女性、子ども、高齢者、障害者への配慮・参画)**
 - ②**気候変動の影響への適応**の観点も踏まえた協力(防災協力は気候変動への適応に資する)
 - ③**日本の知見・技術**を、現地の実情に合わせて活用(官民連携、自治体連携等)
- ➡ 具体的措置として、①ソフト支援、②ハード支援、③グローバルな協力と広域協力の推進を効果的に組み合わせ実施。

4

3 具体的施策

2015～18年の4年間で、防災関連分野で計40億ドルの協力、4万人の人材育成を実施

柱① ソフト支援

法・制度・体制構築支援、防災に関するシステム整備のための技術協力・人材育成等を行う。

- ◆ 防災関連法令(災害対策基本法、土地利用関連法令、建築基準法等)
- ◆ 防災基本計画、治水計画マスタープラン、都市計画マスタープラン、国土・土地利用計画、都市計画・関連制度等
- ◆ 政府(中央政府・地方自治体)の防災部門の設置・体制づくりの支援・強化
- ◆ 国際的防災・緊急人道対応に向けた官・民・NGO連携システム構築・強化支援
- ◆ 災害リスク評価(ハザードマップ作成、気候変動適応研究支援等)
- ◆ 災害の観測、予測、予警報のための技術(情報通信技術(ICT)、地球観測(宇宙技術)・地理空間情報含む)
- ◆ コミュニティ防災、防災教育
- ◆ 防災政策立案及び緊急災害支援(国内・国際)のための人材育成・訓練・技術移転
- ◆ **防災における女性のリーダーシップ推進のための研修**

柱② ハード支援

日本の技術・工法を生かして、事前の防災投資としての経済社会基盤整備(「質の高いインフラ」)、被災後の復興支援。

- ◆ 災害予防のための洪水対策、土砂災害対策、高潮対策、植林を含む森林整備等
- ◆ 災害の観測、予測、予警報のために必要な人工衛星、情報インフラ基盤の整備
- ◆ 建造物の性能補強(耐震、耐風等)
- ◆ 防災関連機材の供与
- ◆ 災害に強い交通施設・ライフライン施設・公共施設、防災に係る通信施設等の整備
- ◆ 被災後の緊急支援、復旧・復興支援

柱③ グローバルな協力、広域協力

UNISDR・IRPへの支援強化に加え、災害状況、社会・文化的背景、脆弱性が類似の国に対し広域の協力を実施。

- ◆ モニタリングやその手法の改善、指標の開発支援
- ◆ 国際的な災害統計整備支援
- ◆ 東北における取組を含めた「より良い復興」の優良事例の情報発信、復興人材育成活動やそのための体制づくり
- ◆ 広域的な制度・体制づくりの取組(センチネルアジア、アジア防災センター、AHAセンター等)への支援
- ◆ 気候変動対策支援(緑の気候基金(GCF))
- ◆ 各地域の地域的協力と我が国が実施する二国間協力の連携

5

ハイレベル・パートナーシップ・ダイアローグ 「防災における女性のリーダーシップの発揮」



※本体会議に位置づけられ、幅広いステークホルダーが出席する3つのハイレベル政府間対話の1つ。

日時 2015年3月14日(土)15:00～18:00

場所 仙台国際センター展示棟 展示室1

出席者 共同議長:高市 総務大臣、レガルダ フィリピン上院議会議員

基調講演:安倍 内閣総理大臣

パネリスト:ハロネン フィンランド前大統領、奥山 仙台市長、

ゲオルギエヴァ 欧州連合委員 財務・人事担当、カズン 国連世界食糧計画事務局長、

オショティメイン 国連人口基金事務局長、メレワラシ フェムリンクパシフィック

<安倍総理スピーチ内容>

- ✓女性の力強さを、防災に、災害からの復旧に、そして災害から地域が立ち上がるために、生かしていきたい。私たちは、災害に立ち向かうために女性のリーダーシップが不可欠であると考えています。
- ✓本日、私は日本の新しい防災協イニシアティブを発表しました。今後4年間で4万人の防災・復興リーダーを育成するというものです。このイニシアティブの主要プロジェクトのひとつとして、「防災における女性のリーダーシップ推進研修」を開始します。
- ✓災害に強靱な社会、つまり「レジリエンス」を持つ社会の構築には、女性が原動力となることが不可欠です。



(写真提供:内閣広報室)

6

パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館 「防災における女性のリーダーシップ」



※仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」で行われた一般公開のシンポジウム

日時 2015年3月15日(日)11:30～13:00 **場所** エル・パーク仙台 ギャラリーホール

主催 国連開発計画(UNDP)、仙台市

内容 国内外で防災や復興の最前線で活躍する政府、NGO、民間のリーダーを招き、それぞれの経験や知見から、今後の課題について議論。

- ・開会挨拶: 有村 内閣府特命担当大臣
- ・基調講演: クラーク 国連開発計画(UNDP)総裁
- ・パネリスト: コルネホ エクアドル危機管理庁長官、
ロヴィーン スウェーデン国際開発協力担当大臣、
カステイーヨ DAMPA創設者(フィリピン)、 小林 伊藤忠商事株式会社取締役会長
- ・閉会挨拶: 奥山 仙台市長



7

パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館 「災害復興時の女性の活躍～地域経済再生の視点から～」



※仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」で行われたシンポジウム

日時 2015年3月18日(水)14:00～17:00 **場所** エル・パーク仙台 セミナーホール

主催 外務省、内閣府、復興庁

内容 我が国及びAPEC域内での復興過程における女性の活躍に係る事例調査の結果を報告。女性の起業に関する優良事例の報告を行うとともに、女性の果たす役割の重要性や女性による起業の成功・阻害要因等について議論。



8

パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館 「女性と防災」企画展



※仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」で行われた企画展示

- 日時** 2015年3月14日(土)～3月18日(水)
- 場所** エル・パーク仙台 スタジオホール
- 内容** 「女性と防災」テーマ館主催プログラム等に関連した企画展示



思いは
立ち上がり
つながり
広がる
Women Can Do It!

男女共同参画推進連携会議「男女共同参画の視点 からの防災・復興の取組推進」チーム 活動と成果物



**内閣府 男女共同参画推進連携会議
「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」
を紹介します!**

内閣府 男女共同参画推進連携会議とは?

- 男女共同参画推進センターが、近き関係者との連携を、国策の推進を担うため、平成24年3月に発足しました。
- 男女共同参画推進、男女共同参画推進センターと、民間の男女共同参画推進センターの連携を推進しています。
- 2015年3月現在、113名(組織)16名(55組織)が参加しています。

「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」とは?

- 男女共同参画推進センターは、男女共同参画推進に関する政策の推進について、民間、官公庁の連携を行うため、チーム活動を行っています。
- チームは、男女共同参画推進センターの存在意義を、国策の推進に貢献しています。
- 男女共同参画推進センターは、民間の男女共同参画推進センターと、民間の男女共同参画推進センターの連携を推進しています。

Introduction to the Cabinet Office Liaison Conference for the Promotion of Gender Equality "Disaster Risk Reduction and Reconstruction Initiatives from a Gender Equality Perspective Promotion Team"

The Cabinet Office Liaison Conference for the Promotion of Gender Equality was established in September 2014 to further strengthen cooperation among all sectors and levels of society and promote activities within a gender equality context.

The Liaison Conference organizes a promotion team which sets specific and practical initiatives to address regional disaster risk reduction and reconstruction. The team of Disaster Risk Reduction and Reconstruction Initiatives from a Gender Equality Perspective Promotion, which disseminates and reinforces disaster risk reduction and reconstruction activities from a gender equality perspective. It also identifies and establishes disaster response activities to contribute to the achievement of the objectives to which its members belong.

(チーム活動の概要)

2014年3月 第1回例会
国策の推進を「男女共同参画推進センター」で取り進めることになり、活動がスタートしました。

2014年6月 第2回例会
防災・復興に関するチームメンバーの役割分担と連携を明確にしました。

**2014年12月(総連合)
2015年1月(第3回例会)**
「被災地男女共同参画推進センター」から活動を開始し、防災・復興に関する男女共同参画の視点と民間のネットワークの連携、専門性、組織性を生かして他組織と連携し、男女共同参画の視点からの災害対応を推進するためのゴールを設定し、活動していく予定です。

これまでの検討をもとに、組織の特性(広域性、専門性、組織性)を生かして他組織と連携し、男女共同参画の視点からの災害対応を推進するためのゴールを設定し、活動していく予定です。

男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進

東日本大震災の経験では、...

国策の推進を「男女共同参画推進センター」で取り進めることになり、活動がスタートしました。

被災地男女共同参画推進センターから活動を開始し、防災・復興に関する男女共同参画の視点と民間のネットワークの連携、専門性、組織性を生かして他組織と連携し、男女共同参画の視点からの災害対応を推進するためのゴールを設定し、活動していく予定です。

国策の推進を「男女共同参画推進センター」で取り進めることになり、活動がスタートしました。

被災地男女共同参画推進センターから活動を開始し、防災・復興に関する男女共同参画の視点と民間のネットワークの連携、専門性、組織性を生かして他組織と連携し、男女共同参画の視点からの災害対応を推進するためのゴールを設定し、活動していく予定です。

企画展で
配布した
リーフレット

東日本大震災の経験から見た男女共同参画に係る課題とその後の対応

課題

- 国策の推進の遅れ、男女共同参画推進センターの活動が限定的であること
- 民間の活動が限定的であること
- 民間の活動が限定的であること

【取組内容】

- 国策の推進の遅れ、男女共同参画推進センターの活動が限定的であること
- 民間の活動が限定的であること
- 民間の活動が限定的であること

【取組内容】

- 国策の推進の遅れ、男女共同参画推進センターの活動が限定的であること
- 民間の活動が限定的であること
- 民間の活動が限定的であること

「女性と防災」企画展で展示したパネル